

”びみょう 続編” 2006.12.22(fri)

びみょう＝微妙な友達関係を維持する現代の若者たち。この日誌をお読み頂いたある方が、それを「対立を避けたい意識」と見事に表現してくれました。素晴らしい感覚の持ち主だと思います。私はそうした意識が起こる背景にやはり時代の変化を感じざるをえません。

私は昭和 30 年生まれ。即ち、この世に生まれ落ちてからの幼年期を高度経済成長真っ直中で育った人間です。ご存じでしょうか、青年期をあゝの激動の安保闘争の直後に過ごしました。学生時代、法律専攻なのに和歌を声に出して詠う万葉集ゼミに、子供たちと遊ぶ指人形劇団、百名を越すバレーボール同好会を開設した私に、某学生運動団体（当時）の数名の友人が、その同志確保の為か、毎晩のごとく私の下宿を訪ねてきては、「君は新安保条約をどう評価する？」と問いたです。私もこんな毎日ではこっちの生活が思いやられるから、その点については友達である相手を撃退すべく友達に有無を言わせぬ論理を考えねばならぬ。必死でしたね。そこには、「びみょうな」友達関係なんてありえなかったのです。しかし、思想信条が異なっても友達なんですね。激動の高度成長期から安定成長期に入った日本社会。高度経済成長期の「反動」として人間関係も安定を望む社会になったことが、現代の若者の心理状態、即ち「対立を避けたい意識」になったように思います。

“自殺” 2006.12.21(thu)

交流分析では、自殺は自他否定の結果です。人に「死にたい」と言われたら、「死んでなんになるの。もっと強く生きましょ」という正論をはかないで下さい。死ぬほど辛いその話をじっくり聞いてあげて下さい。しかし、「人は自ら良くなる力を持っている」という確固たる価値観と健康な心を持って聞いてあげて下さい。人の心には波があります。今は一番苦しく、死にたいと思っても、その時をなんとかごまかしてでも、ちっぽけな理由付けをしてでもいいから、とにかく通りすぎる事ができれば、再び生きる気力とエネルギーが湧いてくることを伝えてあげて下さい。

(12月20日朝、藤枝市内の中学3年生が自殺したとのことを聞いて、ここに書き加えました。ご冥福を祈ります。)

“びみょう” 2006.12.20(wed)

51歳にもなると、ついおじさんっぽく、「今の若者は・・・」から始まる話になってしまいますが、あえてその言葉を切り口に話をしたいと思います。

そう、その今の若者達がよく言う言葉、「びみょう」って、現代の思春期の子ども達の心性をよく映し出していると思いませんか？びみょう＝微妙とは、「繊細」「機敏」「不思議」「神秘」「壊れやすい」「傷つきやすい」という意味を含んでいますよね。今の若者達は、友人関係で微妙、微妙な感情状態、微妙な対人意識、微妙な秘密主義を持っていませんか？

” 19日は高卒認定試験&小学校同級会続会” 2006.11.21 (sun)

N子ちゃん、Yくん、やっと高卒認定試験が終わったね。大丈夫だよ、これまでの君たちの努力はきっと報われるよ。吉報、楽しみにしてるよ。先生、もうその晩に小学校の同窓会続会があって、前祝いしちゃったよ。持つべきは、やっぱり友だね。ホント楽しかったです！一昨日島田の庄やで行った、小学校同窓会続会・4次会。持ち込んだ、その日の午前中に作ったスモークチキンは、ちょっと生煮えだったけどね。ぼん、卒業後何回か会ったけど、二人でじっくり話したのは初めてだよ。俺は生まれ故郷を捨て藤枝に越して来た身だけに、ぼん、先祖代々の地を守り通す君の姿は、ホント立派だよ。R子ちゃんに、K子ちゃん、書きたいことはいっぱいありますが、個人的なことになりますので、この辺で。番外編の悩めるKちゃんの話もね。当然なことだけど、みんなそれぞれに人生を歩んでいるんだね。

” 実に40年振りの恩師との再会” 2006.11.8 (wed)

平川先生（私が小学校3,4年生の時の担任の先生です）、先日4日は、今は無き旧金谷町立北五和小学校5年生の同級会にご出席下さり、ホントありがとうございました。

実に40年ぶりの再会でした。先生は、当時小学3,4年生の私達のあこがれのマドンナ先生でしたよ。山形大学ご卒業後、新任で赴任した北五和小2年目で担任をして下さったのが、我がクラス。私達はさすがに寄る年波に勝てず、当時の面影もわずかで、事前に先生に当時のみんなの写真をお送りし、みんなも当時の顔写真入りの名札をつけて参加しましたが、お分かりになりましたでしょうか？正に浦島太郎の世界でしたでしょうね。一気に40年の歳月が流れたものの、語り合う内に、みんな当時を思い出し、話の花が咲きました。中には、当時の学校の建物の配置図や校庭の様子を絵に描く合う者も出て、本当に懐かしかったです。「ちゃん」づけで呼び合う竹馬の友は、やはりいいものですね。夜9時過ぎに最後に駆けつけたみのちゃん（配布した昔の記念写真と名札を作ってくれた友です）を迎え、4人で3次会までやっちゃいました。実に11時間余の楽しい一日でした。

” 銀婚式かあ〜” 2006.11.1 (wed)

10月31日深夜、事務所に戻りましたら、(財)藤枝市勤労福祉サービスセンターから11月の御祝い給付の1枚のFAXが届いておりました。見ると、結婚25周年、銀婚の御祝い給付のFAXなんですね。・・・このところ、来年のNPO静岡県教育フォーラムの活動に対する助成金申請と、昨年暮れの年末調整から経営見直しのため経理を私自身で行っております当社の決算書類作成で、連日徹夜に近い状態で正直、昨年につき本日の結婚記念日のことはすっかり忘れておりました。・・・私達も結婚に至るまでいろんなことがありました。でも、それがあったために25年、四半世紀、私達は夫婦としてやってきたんだと思います。その意味であの試練を与えてくれた女房のご両親と私の両親に感謝致します。このFAXで、今年は昨年のように娘達にお叱りを受けることがなく済みそうです。この4日の30数年ぶ

りの小学校の同級会を控え、いろんなことが走馬燈のように目の前に浮かんできま
す・・・・・・・・。

” 養老先生の「他人のせいにするな」 2006.10.4 (wed)

久しぶりに気持がすっきりする文を読ませて頂きました。これは先月 9 月 30 日、静岡新聞に掲載された「現論」です。皆さんも是非お読み下さい。これ以上のコメントもないと思います。どなたかが言いましたよね。正に「子供を叱るな！自分が来た道じゃ。親を笑うな！自分が行く道じゃ。」(違ったかな?)

” 夜中 12 時に車を飛ばして来てくれた友” 2006.10.2 (mon)

宵っ張りと言えば、それまでですが、友はいいものです。一昨日の夜飲む機会がありまして、2 次会(あっ！4 次会かな?)に行きつけの店に行きましたら、店に入るなりある女性の方に「えっー！そのまんま！」と驚かれてしまい、こっちもびっくり。

聞けば、私のホント竹馬の友、幼稚園から親友で私達の結婚式の司会をして頂いた友から、パソコンを習っており、つい一週間前にそのパソコン教室でこのホームページを紹介され、掲載されている私のイラストを見たばかりと言うのです。同じ藤枝に住んでいるとはいえ、その人がたまたま飲んでいて店に入って来たから驚いたそうで、さっきの言葉になったんですね。

それからは一緒にその店に行った町内の壮年会のメンバーをそっちのけに(ごめん!)、その彼の話になり、その方がその友に、今一緒に飲んでるとメールしたら、なんとはるばる掛川から夜中の 12 時に車を飛ばして店まで来てくれたんですね。15 年以上ぶりの再会かな。彼は金谷高校演劇部部長で、3 年の文化祭の演劇で終了の緞帳が降りたとたん興奮して彼が鼻血を出し、私が楽屋に行ったら、相手役の女性の膝に頭を置いて手当てされてた話やら、金谷町(現島田市)五和の日切りの地蔵さんに、高熊(当時の金谷町の北のはずれ)からバスに乗ってで行った時、当時は峠道は舗装されておらず、でこぼこ道で、最後尾の席に座った>私達は、バスが道のくぼみに入り乗り上げる度にバスは激しく揺れ、バスの天井に頭をぶつけながら、それがまた楽しくてはしゃぎまくってた話に花が咲いた。彼も茶刈り機メーカーに勤めた後、コンビニを経営、なかなかその経営も大変な時期で、再びその茶刈り機メーカーに拾われ、パソコンは独学で学び、ボランティアで教えているとのこと。ホント楽しい夜でした。

”夢は広がります” 2006.9.25 (mon)

昨日、この夏実施しました「2006 北海道・釧路湿原 夏さわやか大自然交流合宿」の実施報告会を行い、約 2 ヶ月ぶりに参加しました子供たちとリーダーと会って、合宿のビデオを見ながら、合宿話に弾み、楽しかったですね。当フォーラムでは、本ホームページのわんぱく自然の里のページ(現在閉鎖)に本日書き込みましたが、この冬のふじてん合宿

に続き、2007年春はオーストラリア合宿、そして2007年夏に中国の内モンゴル・銀川で砂漠化防止の植林事業合宿、2007年冬は再び北海道・釧路湿原、ダイヤモンドダスト・ワカサギ釣り体験合宿と、素晴らしい体験交流合宿を企画しております。今後計画を進めていく中で変更があるかもしれませんが、是非楽しみにお待ち下さい。

” 5年ぶりの同窓会 ” 2006.8.11 (fri)

今晚は、「釧路湿原・夏交流合宿」は無事終了致しました。やはり道東は涼しいですねえ。1日午後2時の釧路空港の気温は19.5度でした。同じ緯度の札幌とも10度近く違うんですね。そんな中、参加しました12名の子供たちは、本合宿で大変貴重な体験を致しました。詳しくは、本ホームページの「わんぱく自然の里」(現在閉鎖)をご覧ください。

さて、明日12日はタイトル通り、5年ぶりの中学校の同窓会です。やはり竹馬の友は懐かしく、いいものですねえ。孫を持つ世代になっても、〇〇ちゃんって呼び合う友。毎回ながら、おそらく昼から12時間、昔話しに花を咲かせて来ます。

” いよいよ夏合宿に出発します。 ” 2006.8.1 (tue)

いよいよ釧路湿原・夏合宿。ギリギリまで誘い続けたT君。先生にとっては君の夏合宿不参加は残念だったけど、やっと自分の意思をお父さんに言えたことは大きな進歩だよ。ホントは、先生はそれを待ってたんだよ。その意味では、それは先生の目論み通りなんだ。そう、それは君にとって不登校解消に向けて大きな1歩となったんだよ。

” 協働に思う ” 2006.7.2 (sun)

6月30日静岡県教育委員会主催の地域社会教育指導者研修に出席し、朝10時から午後4時過ぎまで、講演、事例研究を聞き、分科会に分かれて「社会教育行政とNPO法人との協働」についてグループワークしてきました。残念ながら、こうした演題ながら、出席したNPO法人はわずかに5法人という状態でした。「創知協働」を掲げる静岡県ではありますが、金曜日という平日であることも考慮に入れても、これが行政とNPO法人との温度差の実体なのかもしれません。当フォーラムにとりましては、平成13年度1年かけて藤枝市の諮問委員会に出席し、同テーマについて有識者の皆さんと話し合い、提言をまとめたにもかかわらず、いきさつはありまして今年度、先の本日誌でもお分かりの通り、藤枝市教育委員会の不登校支援に関して補助金カットを決定する行政であります。勿論補助金カットでも、相変わらず不登校に関しての相談は相次ぎ、当フォーラムの会員の皆様と、私の運営する学習塾も含めて数個の企業の皆様のご支援の元に、ほぼ毎日その対応をしております。このグループワークで申しあげましたが、それぞれの領域に関しまして役所、NPO法人共に専門であるはずです。たとえほぼ3年毎に担当者が代わる役所であっても、その領域に関してはその実体を把握していなければ、適切な行政を行うことはできませんし、適切な施策を講じることもできません。一ヶ月前の市学校教育課のお話のように、行政は

予算計画、配分に終始しているだけはないかと思えます。その学校教育課との話し合いの場で強調しましたが、国の行政改革の元予算が次々に削減されていく中で行政のやることは、まさにこの「協働」であります。即ち、その実行に関してはNPO法人（法人如何にかかわらず市民団体も含めて）との協働を生かし、如何にその予算を効率的に生かし、如何に今まで以上の効果を出していくかに専念して頂き、年度ごとにでも数年ごとにでもその活動の実態とその効果を厳しく検証して、次年度以降の協働を決定していくべきではないかと思えます。いかがでしょうか？その意味で今回の市の決定は、年当初に提出した計画書外の事項であった応談活動の詳細な実施報告なき実施報告書の検証の結果と受け止めなければならないと思っておりますし、一方で6月29日付けの日誌の通り、現状を鑑み、当フォーラムはこの協働から少し距離を置き、ブロードバンド社会に対応して自立するNPO法人としての足固めをしていこうと考えております。

” 教師の不祥事に思う続編” 2006.7.5 (wed)

静岡新聞朝刊にも、「裏切られた信頼」と題して本日まで9回にわたってこの問題が取り上げられました。「教育とは教員と子供が人間的に結び付きながら、成果を導き出していく営み」故に、「高い倫理観が求められ」と言われるが、それは教師以前に人間としての倫理観です。また、「40代と言えば勤続20年前後で、主任の肩書きが付くなど仕事上の責任が増す時期」。「経験が生きる充実期であると同時に、自信を失ったり、以前にも増してストレスにさらされる時期である。」しかし、それは教師でなくても会社員でも仕事をしておりまして同じことです。勿論、子供たち相手に仕事をしております教師が、その仕事対象の、ましてや我が子と同じ世代の子供たちに対して性犯罪を犯すのですから、クローズアップされているんですね。

しかし、心理学的に考察しますと、定年退職を前にして万引きで懲戒免職に追い込まれる校長先生、東大を出てエリート官僚の道を進んでいる最中、多額の公金を横領して同じく懲戒解職になった国家公務員と同様に、高い倫理観、即ち、交流分析で言えば、特に思春期前後からの成長過程の中で、親、またはその代役を担った人達が、彼らのCP（批判的な親の自我）と、A（大人の自我）の成長を阻害し、ないしは、それを促進してこなかったんでしょう。端的に言えば、初めて同様なことを行った時に、彼らの評価か、世間体を気にしてそれをうやむやにしてきたか、少なくとも厳しく断じてこなかったんでしょう。適切な時期に、適切なしつけをしてこなかった結果が、あのような事件を引き起こしたと思えます。その意味で、彼らにとってそうした行為は1回や2回のことではないはずで、いつの世にも厳しい親と優しい親は共に必要なんですね。

” あるおじいちゃんのご冥福を祈る” 2006.7.8 (sat)

先日5日の夕方、一人のおじいちゃんがお亡くなりになりました。思えば、おじいちゃんは、2003年10月のSBS静岡放送・日本医師会テレビ健康講座「ふれあい健康ネット

ワーク「不登校への理解と支援」で、当フォーラムが紹介されました番組をご覧になり、当時不登校になっていましたお孫さんを案じ、この事務所の地名と入り口の映像だけを頼りに、はるばる私を尋ねてきて頂いたのが、初めての出会いでした。私の女房もホントびっくり致しました。そのお気持ちに感動し、私も他県に住むそのお孫さんの不登校解消に向けて、約一年の間取り組ませて頂きました。その間、おじいちゃんにも何度となくお会いし、この日誌のも出てきますが、リハビリを兼ねて作られた、竹や小枝を利用して作られた動物の置物をたくさん頂きました。不思議でした。お亡くなりになったその時間に、私は塾に飾られたその置物（2005.2.21 付け当日誌をご覧ください）について、一人の高校生と話してしていたんですね。ご冥福をお祈り致します。

”ブロードバンド社会における学習塾・予備校” 2006.6.29 (thu)

ちは。先日、15日、相次いである会社の社長さん、会長さんとお会い、お話しをお聞きしました。共にこのブロードバンド社会に対応してインターネットを通じて学習指導を行う会社です。6年前に東進衛星予備校に加盟して以来、私も時代に相応した学習塾、予備校の在り方を模索し、運営してきましたが、時代はもう「教室を用意し、そこに来る生徒を教える」という寺子屋方式ではありませんね。ネット社会でも、インターネット電話の双方向通信を通じて十分コミュニケーションが取れ、個別面談も、心理カウンセリングも可能です。既にNPO 静岡県教育フォーラムのオープンフォーラムでインターネット学習指導は採用しておりますが、当スクールもこの8月から、ネットを通じての学習指導と教育相談を本格的に開始しようと準備を進めております。

”目下ゲシュタルト療法勉強中” 2006.6.5 (mon)

ちは～。昨日は、絶好の行楽日和。今期2回目のカヌーに行ってきました、日焼けで少し体が火照っております。早朝からカヌーと分かっているながら、前夜も2時頃まで、途中なんと1時頃の飲みの誘いも振り切って、読み耽っております。「ゲシュタルト療法—その理論と実際」(ナカニシヤ出版)という本です。ホメオスターシス、イントロジェクション、プロジェクション、コンフルーエンス、????、リトロフレクション、カセキシス、??、???, 横文字の大波に揺られ、時にはのまれながら、悪戦苦闘しながらの勉強です。しかしながら、時にスーッと飲み込める瞬間があつて、そこが楽しくてついつい夢中になっております。しかし、勿論のこと、人の心理を扱っております故、難解な内容ですが、今月の心理学勉強会のため、なんとか頑張っております。

”藤枝市教育委員会学校教育課との話し合い終わる” 2006.6.2 (fri)

本日午前10時前から11時半頃まで、佐野愛子県議(藤枝東高時の同級生なんですね)、向島春江市議と共に、山本・藤枝市教育委員会学校教育課長と、当フォーラムの活動と不登校生の対応について話し合いをさせて頂きました。当フォーラムの活動については、平

成 17 度実施報告書の詳細を提出、ご説明し、改めて当教育委員会に認識させて頂きました。また不登校生の対応につきましては、予算削減を訴える教育委員会に対しまして、私共が行ってきた不登校の解消は、その専門であるスクールカウンセラー、心の相談員の皆様にもできるはずである旨を強調し、限られた予算のより有効な活用を強く要請させて頂きました。要は給料を頂いて、不登校生の対応を行っているのならば、もっと研修、自己鍛錬し、もっと実行あるべき対応をすべきである旨をお話しさせて頂きました。これも真の行政改革であります。ご同席頂きました佐野県議と向島市議、また今回の話し合いのためにご尽力頂きました内藤洋介市議（彼も藤枝東高時の同級生なんです）には改めて御礼申し上げます。

” 教師の不祥事に思う ” 2006.5.29 (mon)

このところここ静岡で、教師や学習塾講師による何とも恥ずかしい事件が発覚し、情けなく思っております。このような児童買春は、交流分析流に言えば、FC（感性）がA（理性）を汚染、あるいは排除している者が行う行動で、仮にも教育に携わる者としてあるまじき行為であることは誰もが思うことです。教師以前、人間としての資質を問います。単に本人のストレスと片付けられるものではありません。こうした体験はいくつかの禁止令をもたらし、関係した子ども達は勿論のこと、こうした事件を目の当たりにした子ども達への心理的影響を心配しております。きちんとしたカウンセリングを受けられることを望みます。当の教師や講師には弁明の余地は全くありません。ただ今後このようなことが絶対に起こらないようにするために、どうして人がこのような行動を起こすのか、交流分析を学ぶも者として考えます。生育歴の過程で何がFCを大きく成長させ、P、特にNP(母性を弱め、Aを汚染、隔離してきたのだろうか？来月の心理学フォーラム（6月11日）で、皆さんと一緒に考え、ここに書き留めたいと思います。

” 藤枝市教育委員会学校教育課の静岡県教育フォーラムの活動に対する認識不足の原因 ”

2006.5.19 (sat)

5月13日の書き込み以来、色々な方々からご意見頂き、ありがとうございます。お骨折り頂いた市会議員の皆様には感謝しております。

結論を言えば、このSSN（スクーリングサポートネットワーク）事業の当フォーラムの報告書に、当フォーラムのこの1年に渡る全活動報告を取り込むべきだったようです。私は、この事業に関して年当初に出した計画に対する報告書として、昨年までの2年間のものと同様に、詳細までは膨大な資料になりますことから（一昨年か、その資料を添付ファイルとしてメールにて送信したら、市教委のパソコンが容量不足でフリーズさせた経過もありましたので）、その概要だけを例年の型通りに提出しておりました。

ところが、実際はこの1年で計150日余の膨大な時間と労力を費やしてきました教育相談に関しまして、私自身がそのすべて受けておりましたことから、またSSNの補助金を上

記の他の活動に当てればこの教育相談業務に当てる余裕はなく、従ってその報告も簡便なものにしてしまいましたことが、市教委学校教育課の当フォーラムの活動に対する認識不足を招きましたようです。

この SNN 事業計画にあげてなかった豪州合宿の成果は、藤枝市長並びに藤枝市国際友好協会が不登校生の対応については当該学校が把握しており、これもその事業外でその詳細な報告を学校教育課にしてなかったことは致し方ないことです。ただこの教育相談に關しまして、その詳細は個人情報の問題もあり、なかなかまとめるににくいこともありましたが、この1週間をかけまして私の面談メモと手帳を元に掘り起こしました。勿論、一部は面談記録を取らなかったものもあり、これがすべてとはかぎりませんが、現在市議員がお骨折り頂いております、市教委学校教育課との話し合いの際に提示するつもりで、他の詳細な活動報告も併せて、この1年間の当フォーラムの全活動報告を1枚の CD にまとめました。

いずれに致しましてもこうした教育相談は、奢りではありませんが、マスコミの皆様を始め多くの皆様のお陰で、これまでの当フォーラムの活動が広く認識されはじめておりますことから、絶えることなく、今年度も新たな不登校生等の相談がきております。他の活動は参加者の参加費や賛助企業の皆様、県や市の他の補助金に負うことができますが、残念ながら今年度のこの教育相談事業は、当フォーラム会員の皆様のご支援と運営の中心母体であります私の本業会社の支援を仰ぐしかないと考えております。

”文部科学省のスクリーニングサポートネットワーク(SSN)事業について” 2006.5.13 (sat)

一昨日藤枝中央小にある不登校のお子さんの件でお伺い致しました。午前10時から午後1時45分頃まで、途中給食を頂きながら(お気遣いありがとうございました)、その子の心理分析を元に、その解消に向けて対応を協議させて頂きました。大変有意義な話し合いでした。教頭先生を始め、本学年と前学年の担任の先生方、養護の先生には大変お世話になりました。お陰様でその解消に向けてのプログラムが見えて参りました。特に教頭先生とは不登校生の対応について考えが一致し、共感を覚えました。必ずやこのお子様を授業復帰させて頂きますので、ご協力をお願い致します。

そんな折りその日の深夜ある方から、今年度当フォーラムが表題のスクリーニングサポートネットワーク(SSN)事業委託から漏れた理由をお聞きし、非常に残念と言うよりは憤りを感じました次第です。その漏れた理由に、理事長である私の本業が学習塾経営であること、かつ、不登校生の対応を当フォーラムの事務局があるその学習塾の教室で行っていることを挙げられたからであります。それでは、スクリーニングサポートネットワーク事業の趣旨は一体何なのでしょう。

平成11年に当時の文部省が学習塾の存在を初めて認め、学習塾との共存・協力の姿勢を打ち出し(私も学習塾組合の代表の一人としてその趣旨の元に開催しております県教委との会合に何回か参加しております)、更に年々増え続ける不登校生対策としてその解消に向

けて民間施設や民間団体の協力を求めるのがこの事業の趣旨なのではないでしょうか。それなのに、これまで10余年に渡ってその運営母体である私が経営する学習塾と多くの民間企業のみなさんの経済的な支援に支えられて、学習塾で培った学習指導のノウハウを生かし、併せて永く研修を続けてきた心理カウンセリングを元に、90余名の児童・生徒達の不登校解消を行ってきた私共のこうした活動は、その事業の趣旨に合わないというのでしょうか。

確かにこの事業委託を受け、助成頂きましたこの3年間は、ご相談があれば東は御殿場に西は浜松と、あるいは長野県、神奈川県にも出向いて対応してきた私共の活動にとって大変な経済的な支援でありました。そうした私共の活動より、不登校生の居場所作りを進めるフリースクールの方がその事業の趣旨に合うと考えておられるんですか？フリースクールが不登校解消をその主たる目的としたら、当フォーラムのようにお預かりした児童・生徒達が次々と学校の授業に復帰し、フリースクールに通わなくなりフリースクールの運営が成り立ちません。

それ故にこのSSN事業委託を受けるのは、その趣旨に沿うでしょう。勿論、現在のフリースクールは不登校の解消が目的ではなく、あくまで不登校生の居場所作りであります。教育委員会が運営する適応教室の民間版がフリースクールであり、その支援もこのSSN事業の目的の一つかもしれません。私は、このSSN事業の最終目的は不登校の解消なのか、あるいはこの事業は不登校生がどうなることを目標に不登校生の対応するのかを問うているのであります。また、当該フリースクールが学齢期を過ぎた子ども達をみているからという理由もありましたが、駿台甲府高校通信教育部と提携し、この4年余の間学齢期を過ぎた子ども達を指導している当フォーラムをご存じではないのでしょうか？

”TSUYOSHI君、またも静岡新聞にでる！”2006.4.14 (fri)

当フォーラムのTO THE FUTUREで大変お世話になっております唐澤剛史君が今日の静岡新聞朝刊22面に紹介されております。いいことしてるね、TSUYOSHI君！

夢はダンス舞台デビュー

ダウン症児にプロダンサー指導



唐沢さん(中)の指導でヒップホップのステップを練習する川口市中央

地域交流プロジェクト
元気発見団!
SHIRO HAKKEN-DAN

一緒にヒップホップ

掛川市周辺のダウン症の子供たちが中心になり、ヒップホップダンスを楽しんでいる。講師は慶徳市在住で世界的なプロダンサー唐沢さん。川口市中央のダンス教室に、仲間を奪るとともに「ステップ」で人を感動させるようなダンスを踊った。いとこ2年後の誕生日にデビューを夢見ている。

掛川

唐沢さん(中)の指導でヒップホップのステップを練習する川口市中央

ダンス教室は月に一度、掛川市中央の掛川スタディン館の日に合わせて、東京で開かれたダウン症児のイベント「ダウン症児の集い」で、親たちは、プレイクダンスの必要経路まで学んだ。唐沢さん(中)の指導でヒップホップのステップを練習する川口市中央

つという「踊」と子供たちの反応も上々だ。唐沢さんは「レッスンを重ねると、子供たちはステップに流れ込み、笑顔が大好きになる」と喜んでいる。唐沢さんは「踊る」という言葉を聞き、目を輝かせる。

” 3名の不登校生も授業復帰を果たす” 2006.4.14 (fri)

春合宿には参加しませんでした3名の不登校生もこの4月5日の新学期から授業復帰を果たしました。それぞれ昨年8月、12月、今年2月から対応を始めた皆さんです。勿論、その素因は皆さん異なりますが、春合宿に参加し授業復帰した3名も併せて振り返りますと、やはりきちんとその素因を分析し、適切に対応していけば必ず授業復帰できることが実証され、正直ホッとしております。授業復帰を果たした何とも言えないにこやかな笑顔、それが対応した私達への最高のプレゼントなんです。

” 当フォーラムの不登校生の対応について” 2006.4.13 (thu)

先月静岡県NPO推進室の取材を受けました際に表題についてまとめたものを、「NPO 静岡県教育フォーラム」のページ(当グループの「もうひとつのホームページ」をご覧ください)に掲載しましたので、ご興味のおありの方はお読み下さい。

” 春合宿の成果” 2006.4.9 (sun)

ちは。全参加者14名の当フォーラム史上最小規模(ちと大袈裟ですが)の春合宿が終わ

りました。しかし、今回も参加しました不登校生 4 名の内 3 名が、半年、または一年ぶりに、帰藤の翌日 5 日から見事に登校を始めました。うち一人は春休み前に授業復帰を始めてたんですが……。参加しましたリーダーの皆さん、ほんとうにご苦労さまでした。

合宿中のリーダー、スタッフ会議でもお話ししましたが、毎日採りましたこの 4 名のエゴグラム（心理テスト）の変化通り、本人達は明確な意識がないかもしれませんが、確実に心理的素因はその解消に向かっておりまして、登校は予想されてました。残りの一人も少し時間はかかりますが、不登校解消に向かっております。市の国際友好協会を通じて数ヶ月前からお話しをお伺いしております南足柄市の補導員（相談員）の皆様は、是非こうした対応をご覧になって頂きたく、ご案内を申し上げたのですが、急なお誘いの為かご覧頂けず、残念でした。

時は待ってくれません。もう新たに不登校の相談が入ってきております。今度は夏の北海道釧路湿原交流合宿です。帰藤後急ピッチに計画を進めており、概要は本月 23 日に本ホームページ上に発表します。では。

”不登校の素因 続編” 2006.3.17 (fri)

数日前、相談を受けて一ヶ月後、本人とお会いしてから 10 日から小学生の**ちゃんが授業に復帰致しました。実は、その一ヶ月前の心理テストにこの過程が見えていたんです。でも、私はその子の心理的な完全復帰にはもう少し時間がかかるとは思いますが、そう遠い話ではないと思います。

そんな折り、昨日別の不登校の中学生が、それこそこの小学生の 1 日前から対応し始めて 11 日目、私の指摘にびっくり、本人の口からポロポロと不登校に至った素因の話をし始めたんですね。やはり勉強に行き詰まっていたんですね。

“公立高校後期試験受験者 3 名 & 後期試験単願者も無事合格” 2006.3.16 (thu)

今年も高校入試は全員が第 1 志望合格を果たしてくれました。ホッとしております。通算 27 回目の高校受験、やはりこの時期だけがのんびりできるんですね。因果な仕事です。でも、まだ心からゆったりとはいきません、国公立大学の後期試験発表がまだ残っておりますので。今日はちと短いですが、この辺で。

”春合宿、本格的スタート” 2006.3.14 (tue)

一昨日の 12 日午前 10 時半から約 1 時間半、藤枝市れんげじ公園の野外音楽堂前の広場で、この春の交流合宿に参加するリーダー、スタッフと参加者の第 1 回交流会が行われ、「2006 信州・八ヶ岳 春らんまん大自然交流合宿」が本格的スタート致しました。今回は全参加者が 16 名の、非常にこじんまりとした合宿ですが、対応する子ども達にとっては大変大事な合宿となります。8 人程度の小学生から大学生・専門学校生リーダーで構成され、それぞれに役割分担のある縦割りの小集団での本合宿。これが個々のコミュニケーション

形成に大いに役立つんですね。それが主目的故に「交流」合宿なんです。

” 不登校の素因” 2006.3.8 (wed)

昨夜仕事からの帰路、NHK ラジオで現代の子ども達の変化についてのレポートを聞きました。

年齢が若いほど同世代との関わりがない、あるいは関わるのが苦手な子ども達の割合が増えており、幼稚園・保育園、あるいは小学校低学年で集団生活ができない、集団生活に馴染めない、保育士・教師が指導しきれない子ども達が増えており、中学生になるとそうした子ども達が不登校になっていく傾向があるとの興味深い話でした。

少し正確な内容ではないかもしれませんが、そんな話でした。このことは日頃から不登校の子ども達の心理分析を行っております私も感じることです。”交流分析流”に言えば、CP（父性）がほどほど（あるいは低く）、NP（母性）・A（知性）・FC（感性）が非常に低いが、AC（順応性、周りの目を気にする）が異常に高い、これが不登校の子ども達に多いエゴグラムです。NHKのレポートの子ども達の保育士・教師が指導しきれない子供たちは、その中でもFCが高く、ACが低い子ども達ではないかと思われます。このような子ども達は普通不登校にならないと思うんですが、ここ数年こうした子ども達の不登校の相談が確かにあります。NP・ACが低いことから相手の気持を察することが苦手、あるいは気にしない、FCが高いことから感情的になりやすく、衝動的行動が見受けられ、CPの状態によってそれを押さえきれないか、あるいは思いこみが激しい子ども達。

公園デビューに始まる、小さい頃からの同世代の子ども達との関わりは大切です。隣近所のおつきあいができない親達から、どのようにして同世代の子ども達の関わりを学ぶことができるのだろうか、そんなことを強く感じます。

” 心理分析” 2006.3.5 (sun)

なんとまあ、1日に2回の日誌！

昨日お二人の生徒と面談しました。共に現在不登校です。共に初めてお会いしましたが、お二人とも私の心理分析にびっくりしておりました。勿論、より正確な心理分析ができれば、臨床心理士でもない私がこんな対応はやりません。私は、ただ不登校の子達やその親御さんの話を聞くだけの対応には正直疑問を感じているんです。不登校の子達には1日でも早くその心理的ストレスを解消させ、不登校を解消させてあげたいんですね。そのために、心理学の専門家ではない私ゆえに、より正確な心理分析ができるように日々勉強しております。杉田先生に言われた通り、決しておごることなく、かつ固定観念を持たないように。でも、相談に来た子供達の緊張した表情がゆるんでにこやかになるのが嬉しくてこんな対応を続けてるんです。

” 2006J 開幕戦、5年ぶりの生観戦” 2006.3.5 (sun)

私、勘違いしておりました！J1開幕戦は、4日ではなくて、5日の日曜日だったんですね。まさかボケが……。色んな方々からメールやら電話を頂きましたが、その中で3月3日付けのメールに「あさっての開幕戦」の文言があり、あれ？っと思って、アビスパ福岡からのプレスリリースを見直したら、なんと3月5日が開幕戦じゃあないですか！びっくりです。その日、NPOの活動の交流会が予定されていたんですが、参加者の都合で12日に延期。急遽エコパに行けることになりました。ひさしぶりですねえ、サッカー観戦は。Rieさんを始め福岡のサポーターのみなさん、ほんと久しぶりでお会いできそうです。宜しくお願い致しま〜す！

” 3月4日、2006J1開幕” 2006.3.2 (thu)

正直ホント待ちに待った3月4日です。J2降格屈辱のこの4年間、じつとこの日を待ち続けました。感謝しております、福岡の皆様。その昔サッカーの街・藤枝を全国に標榜しながら、Jリーグチームすらもてななかったこの藤枝市。福岡招致に短期間に署名頂いた、あの55万の福岡県民の願いは本物だったんですね。ありがとうございます。この藤枝の地に生まれた藤枝ブルックスーアビスパ福岡は、もう九州・福岡のチームであって、決して藤枝のチームではありません。生粋の福岡のJ1チームであります。よくぞ育てて頂きました。悲しいかな、仕事でその晴れ姿を見れず、ホント悔しいです。頑張れ！アビスパ福岡。

” 26日は大変有意義な晩でした。” 2006.2.28 (sun)

昨晚、数高校の教頭先生方と藤枝市内の数塾の先生方と夕食を食べながら、このところの入試状況の話を聞かせて頂きました。大変興味深い話を聞かされました。

” 高校入試合格に一喜一憂に思うこと。” 2006.2.20 (mon)

センター試験での当校生の頑張りに続き(なんと当校生の全平均が80%越したんです！)、第一次私立高校入試と県立高校前期試験で今年も当スクール生は確かに頑張りました。

でも、このところ毎年気になってるんですが、どうも高校入試に、受験、受験と騒ぎ過ぎ、学力の定着が疎かになりすぎてはいないでしょうか？受験科目が共に5科目から3科目に、2科目しかない高校もあるんですね。総合問題もいいですが、総合問題ならもっとちょっと知識のみならず、中学生としての分析、洞察力と自身の考えが反映できるミニ小論文が欲しいですね。勿論ちっぽけな塾の塾長 なんて偉そうなことは言えませんが、そんな入試に合格したら、もう勉強なんかやめてのんびりしたいって雰囲気が蔓延してるんですね。確かに合格までの本人の努力は讃えるべきですが、合格したからこそこれから落ち着いて今まで不十分だった基礎学力の定着を図り、高校の学習に備えさせる指導が必要に思うんです。高校中退の相談を長く受けていると特にそう思うんですね。

” 昨日、青島北公民館で NPO 静岡県教育フォーラムの紹介をさせて頂きました。”
2006.2.6 (sun)

仕事で一昨日の夜って言いますか、昨日の朝 5 時まで掛かり、睡眠わずか 1 時間半で挑んだ 10 分のプレゼンテーション。冬期、直前講習の授業で声も涸れ、少し聞き取りにくい声でご迷惑をお掛けしましたが、なんとか当 NPO の活動を紹介させて頂きました。特に不登校生の共通した心理的素因とその対応については詳しくお話しさせて頂きました。先日も藤枝市国際友好協会を通じて南足柄市の方からも不登校生の対応についてお問い合わせがあり、資料をお送り致しましたが、少しでも私共がこれまでやって来ましたがお役に立てば幸いですし、またお互いの情報交換ができ、より適切な対応が議論できればと思っております。

” 多忙でございます。” 2006.1.29 (sun)

年末調整に加えて、協同組合の決算と NPO の助成事業報告書の作成、受験生のセンター試験に高 2 生のセンター同日受験、中学生の最終模試、数え上げたらきりが無い。相変わらず多忙な毎日です。もういくつかの学習塾や予備校では新学期生募集チラシも入ってきており、当スクールも新学期生募集の準備もしなくてはならないんですが、不思議なことに募集チラシを出していないのに昨年末からポロポロと入塾者が続いております。ありがたい話です。唯一本ホームページだけは何とか新学期に備え、書き換えております。

そんな中、対応しております不登校生の 2,3 人が登校に向けて動き始めております。彼らにのしかかっております「不安」、当然にその除去が不登校解消の鍵になります。彼らにとっては自分に覆い被さり、押しつぶされる程のその「不安」は、突き詰めていくと実体がないんですね。それを彼らに認識させることが不登校解消になっていきます。そんなふうに思います、この頃は。

” 明けましておめでとうございます。” 2006.1.4 (wed)

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年も宜しくお願い致します。

新年を迎え、やっと一息つけました。過酷ですね、50 を過ぎると冬期講習が。去年の暮れ、メガネが遂に遠近両用に。年を取るはず、長女も今年成人式。2 日には女房の実家に買ってもらった着物（次女兼用）を披露。もう成人なんて気持は複雑だね。私もやはり人の親ですね